

しあわせ

「幸せ」って何だろう。朝、温かいごはんと納豆とキムチと具たくさん味噌汁を食べる「幸せ」。朝、ゆっくり眠りをむさぼる実夢のような「幸せ」もある。

この「しあわせ」という言葉の語源は「し+あわせる」で、「する」に「めぐりあわせ」などにある「あわせる」がくっついた言葉で、巡り合わせのことである。本来の意味から考えれば、「よい+しあわせ」も「悪い+しあわせ」もあつたと言える。ただし、現在では、「しあわせ」だけで、「よい+しあわせ」だけを表す。このような意味の変化はほかにもある。例えば「天気」には本来「いい天気」「悪い天気」もあるのだが、「天気」だけで、「いい天気」だけを表すようになった。「結構」もそうだ。「結構」とは、漢字の意味

の通り、もともと「こしらえ」などを表す名詞だが、「結構」だけで、特に「よい+結構である」ことを表すようになった。言葉の変化は、意外とブラ入指向だ。なかなか、結構なことです。

さて、この「よき+しあわせ」＝「幸せ」だが、英語にも共通する。実は、ハッピー「happy」という言葉も、「出来事が偶然起る」ことを形容詞にした言葉である。この「hap」は、「happen」や「perhaps」などの語の中にもある。日本語でも英語でも、ありがたき偶然に感謝する気持ちこそが「幸せ」なのだ。もし「幸せ」なのであれば、その巡り合わせに対して、感謝しましょう。もちろん、あの有名な歌のように、手をたたいてもいいです。

「幸せ」が「よき+しあわせ」であるからには、幸せになるために努力し

ても、そのままダイレクトに、「幸せ」を勝ち取れないということもあり得ることになる。でも、いつかそのうち、ひよいと「よき+しあわせ」がめぐってくることもあるはずだ。

また、この社会は、偶然の出会いとつながりに満ちている。そんな中で、自分との「出会い」が他の人の「幸せ」に多少ともつながることだってあるはずだ。もしそんなことがあるのなら、それこそが自分にとってのまさに理想的な「幸せ」ではないか。例えば、学生のみなさんに、少しでも「しあわせ」感のある授業をしたい。ただ、たまには私の授業が受講者を幸せな眠りにいざなってしまうこともあるようなのだが。うむむ。――あなたの「幸せ」、何ですか？

京都教育大学教授

森山卓郎